

## 令和5年9月26日会頭記者会見 発言要旨

### ■KYOTO Next Award 結果発表について

はじめに、「KYOTO Next Award」の選考結果について報告いたします。

「KYOTO Next Award」は、次の時代の京都ブランドとなることが期待される取り組みや担い手を発掘・表彰するものです。初めて実施した今回、60件の応募があり、書面審査とプレゼンテーション審査を経て、2件の受賞者を選定しましたので、紹介いたします。

1件目は「一般社団法人アーツシード京都」です。

こちらは、倉庫をリノベーションした、小劇場「THEATRE E9 KYOTO」を運営されています。かつて、京都には数多くの小劇場があり、著名な演出家や役者、優れた舞台芸術家などを多数輩出してきました。しかし近年、歴史ある小劇場が老朽化や所有者の高齢化のため次々と閉鎖され、活動の場が失われるなど、舞台芸術を取り巻く環境は危機的状況です。そのような中、同法人は、企業や金融機関、地域の支援を得て、2019年に小劇場を開館されました。演劇やダンスなどの公演に加え、新たな事業展開として、演劇を通じてビジネスパーソンが自己認識力を高めたり、チームビルディングに取り組む場を設けるなど、劇場の安定運営に努め、伝統ある京都の舞台芸術の継承・発展に尽力されています。今後も地域社会と協働し、活動の幅を広げ、小劇場発の舞台芸術を京都の新しいブランドとして育ててもらいたいと思っています。

2件目は「株式会社 RE-SOCIAL」です。

同社は、京都府南部の笠置町で鹿肉などを提供する大学ベンチャーです。起業の理由は、農作物被害や森林被害対策として捕獲された鹿など野生動物の9割が廃棄処分される日本の現状に衝撃を受け、獣害の解決と循環型社会の実現を目指すためです。ジビエ業界が抱える課題は、供給が不安定であること、また肉質が硬く臭みが強いことに加え、可食部が少なく廃棄部位が多いことなどが挙げられます。それらの課題を独自の手法と技術によって解決し、鹿の全ての部位を活用するビジネス展開によって着実に売上を伸ばしています。現在は笠置町に加え、南山城村や和束町、木津川市など周辺地域へも活動の輪を広げ、地域で捕獲された鹿を100%近く有効活用することを目指しています。自然に感謝し、自然と共生してきた日本古来の文化を受け継ぎ、笠置町発の新たなブランドとして、持続可能な社会の実現に貢献されることを期待しています。

「KYOTO Next Award」の表彰式は、10月16日17時より京都市リサーチパークにて開催し、先ほどの2社から最優秀賞を発表します。受賞者とそれぞれの事業に関心を持つ企業との交流会を開催しますので、ぜひ取材にお越しください。

### ■京都経済について

7月から9月期の経営経済動向調査の結果がまとまりました。7月から9月期の国内景気のBSI値はプラス5.7、自社業況はマイナス2.1となりました。前期の4月から6月期が、新型コロナの5類移行により大幅に上昇した影響で、今期は景気の回復傾向に一服感がみられました。先行きは、秋の観光シーズンや年末需要を背景に、再び上昇・拡大に向

かうと期待が高まっています。また商品・サービス価格や請負価格で上昇が見られ、中小企業においてもようやく価格転嫁が広がりつつあるものと思われます。しかし依然、原材料・エネルギー価格が高どまりしているとの声が多く、経常利益は下降していることから、生産性向上を図り、稼ぐ力を高めていく必要性を感じています。

本所では、生産性向上に向けた企業支援の一つとして、ITツールの導入を推進しているところです。今回の付帯調査で、「企業のデジタル技術の活用・IT導入」について尋ねたところ、「業務効率化」や「省力化」を期待する企業が半数以上を占めており、人手不足への対応の点からも導入・活用が急がれます。

一方で、導入コストやIT人材の不足により、特に小規模事業者ほどIT導入が進みにくいという課題があります。企業のITツールの導入を後押しするため、本所では11月17日に中小企業の方々に使いやすいソフトやシステムなどを集めて展示・体験・相談会を開催します。導入コストを軽減するための会員向けの優待サービスも設けましたので、ぜひ当日ご取材ください。

また、10月には京都府・京都市に対して、次年度に向けた施策の要望を予定しています。価格転嫁を実現するための環境整備や中小企業のデジタル化支援の充実を含む5つの重点項目について要望します。

京都商工会議所では、中小企業の自己変革や持続的成長を引き続きサポートしてまいります。